

2010年度 全国総会「京都大会」資料

2010年6月26/27日

(於：京都市)

全国頸髄損傷者連絡会

目 次

I	2010年度 全国総会プログラム	2
II	特別報告資料	3
III	2009年度 全国頸損活動報告 2009年度 年間活動報告と現状	7
	全国頸髄損傷者連絡会・本部	10
	栃木頸髄損傷者連絡会	11
	東京頸髄損傷者連絡会	11
	神奈川頸髄損傷者連絡会	12
	静岡頸髄損傷者連絡会	12
	愛知頸髄損傷者連絡会	13
	頸髄損傷者連絡会・岐阜	14
	京都頸髄損傷者連絡会	15
	大阪頸髄損傷者連絡会	15
	兵庫頸髄損傷者連絡会	17
	愛媛頸髄損傷者連絡会	19
	連絡所(北海道・福島)	20
IV	2009年度 会計報告・会計監査報告 2010年度 予算案	21
V	2010年度 活動方針提起 You are not alone (一人じゃないよ) 誰もが自立して生きられる社会を目指して 2010年度 年間活動方針(案)	23
VI	規約改定について	25

【2010年度 全国総会プログラム】

■大会テーマ『地域生活』

私たち障害者は、地域で暮らしていくには様々なサポートが必要である。介助者もその一つで、私たちの生活・人生を支えてくれている。しかし、単純作業ではない介助をどう作り上げていくかは困難極まりない。介助者と利用者が介助を協同作業で作り上げていくことに焦点を当てる。

■日程・会場

平成 22 年 6 月 26 日（土）～27 日（日）

シンポジウム/交流会/全国総会会場：京都テルサ京都府民総合交流プラザ内（075-692-3400）

宿泊場所：新都ホテル（TEL：075-661-7111）

○6月26日（土曜）

12:00：受付開始（京都テルサ2階）

13:00：大会開催挨拶・来賓紹介と挨拶

13:30：シンポジウム開始 第1部「重度障害当事者と介助者との関係性」映像

14:15：（休憩）

14:30：第2部「重度障害当事者同士との生激論」

16:30：シンポジウム終了 閉会挨拶

17:30：交流会受付開始（京都テルサ2F）

18:00：交流会開始・挨拶

20:00：初日終了・閉会挨拶

各自新都ホテル・宿泊場所へ移動（ボランティアの案内）

○6月27日（日曜）

9:00：全国総会受付開始（京都テルサ）

9:30：全国総会開始

- ・開会宣言
- ・総会成立可否報告
- ・会長挨拶
- ・議長選出

10:00：・特別報告「障がい者制度改革推進会議について」

11:00：・09年度 全国頸損連絡会・トピック活動報告

- ・09年度 収支報告・監査報告
- ・規約改定
- ・役員改選
- ・10年度 「年間活動方針提起」審議
- ・10年度 「予算案」審議
- ・新役員挨拶

12:30：閉会挨拶・全日程終了

■特別報告

添付資料 1

障がい者制度改革推進本部の設置について

平成21年12月8日
閣議決定

1 障害者の権利に関する条約（仮称）の締結に必要な国内法の整備を始めとする我が国の障害者に係る制度の集中的な改革を行い、関係行政機関相互間の緊密な連携を確保しつつ、障害者施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、内閣に障がい者制度改革推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

2 本部の構成員は、次のとおりとする。ただし、本部長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めることができる。

本部長 内閣総理大臣
副本部長 内閣官房長官
内閣府特命担当大臣（障害者施策）
本部員 他のすべての国務大臣

3 本部は、当面5年間に障害者の制度に係る改革の集中期間と位置付け、改革の推進に関する総合調整、改革推進の基本的な方針の案の作成及び推進並びに法令等における「障害」の表記の在り方に関する検討等を行う。

4 本部長は、障害者施策の推進に関する事項について意見を求めるため、障害者、障害者の福祉に関する事業に従事する者及び学識経験者等の参集を求めることができる。

5 本部の庶務は、関係行政機関の協力を得て、内閣府において処理する。

6 前各項に定めるもののほか、本部の運営に関する事項その他必要な事項は、本部長が定める。

7 平成12年12月26日閣議決定により設置された障害者施策推進本部（以下「旧本部」という。）は廃止し、これまで旧本部が決定した事項については、本部に引き継がれるものとする。

■坂上正司（さかうえただし）氏プロフィール

- 1964年 兵庫県宝塚市生まれ
- 1981年 高校1年の時ラグビーの試合で頸髄を損傷（C-3,4不全）
- 1984年 高校卒業、大学入学
- 1985年 大阪頸髄損傷者連絡会設立に参画 事務局長、編集部長に就任
- 2002年 全国頸髄損傷者連絡会 副会長に就任 現在に至る
- 2003年 兵庫頸髄損傷者連絡会設立に参画 監査役に就任 現在に至る
- 2006年 日本福祉のまちづくり学会・関西支部 幹事に就任 現在に至る
- 2007年 宝塚市障害程度区分認定審査会委員に就任 現在に至る
兵庫県身体障害者相談員拝命 現在に至る
- 2009年 宝塚市地域自立支援協議会・けんり・くらし部会長に就任 現在に至る
（他、官・民の委員会等の要職を歴任）

■東谷 太（ひがしたに ふとし）氏プロフィール

- 1963年 大阪市生まれ
- 1983年 原付バイクの交通事故により頸髄を損傷
- 1984年 星ヶ丘厚生年金病院退院、その後7年間在宅で寝たきり生活を送る
- 1991年 普通4輪自動車運転免許取得
- 1992年 大阪府障害者職業能力開発校メカトロニクス科 入校
大阪頸髄損傷者連絡会 入会
- 1993年 一人暮らしを始める
- 1994年 自立生活支援センター・ピア大阪 就職
- 2003年 " 退職
- 2003年 特定非営利活動法人あるる代表理事に就任 現在に至る
- 2007年 大阪市障害程度区分認定審査会委員に就任 現在に至る
（他、行政・障害者団体等の委員などを務める）

障がい者制度改革推進会議構成員名簿

大久保 常明	(福)全日本手をつなぐ育成会常務理事
大谷 恭子	弁護士
大濱 眞	(社)全国脊髄損傷者連合会副理事長
◎ 小川 榮一	日本障害フォーラム代表
尾上 浩二	(NPO)障害者インターナショナル日本会議事務局長
勝又 幸子	国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部長
門川 紳一郎	(福)全国盲ろう者協会評議員
川崎 洋子	(NPO)全国精神保健福祉会連合会理事長
北野 誠一	(NPO)おおさか地域生活支援ネットワーク理事長
清原 慶子	三鷹市長
佐藤 久夫	日本社会事業大学教授
新谷 友良	(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会常務理事
関口 明彦	全国「精神病」者集団運営委員
竹下 義樹	(福)日本盲人会連合副会長
土本 秋夫	ピープルファースト北海道会長
堂本 暁子	前千葉県知事
中島 圭子	日本労働組合総連合会総合政策局長
中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表
長瀬 修	東京大学大学院特任准教授
久松 三二	(財)全日本ろうあ連盟常任理事・事務局長
○ 藤井 克徳	日本障害フォーラム幹事会議長 日本障害者協議会常務理事
松井 亮輔	法政大学教授
森 祐司	(福)日本身体障害者団体連合会常務理事・事務局長
山崎 公士	神奈川大学教授
オブザーバー 遠藤 和夫	日本経済団体連合会労働政策本部主幹

(敬称略五十音順)

※ ◎は議長、○は議長代理。

2009年度 全国頸損活動報告

2009年度 年間活動報告と現状

我々が求める生活が頸髄損傷者のみ当てはまるものではない状況を知りつつ、かつ頸損者に特化したものを求めていかなければならない現実がある。しかし、一当事者団体単独で全てに対応することが難しい時代となっているのも事実である。頸損連絡会は、頸損者に特化した問題と、障害枠を超えて取り組むべき問題の解決を目指して活動を続けているが、会員の皆様の期待に十分応えきれていないかもしれない。

頸髄損傷者となり一人で悩むことなく、誰もが自立（自律）して生きる社会を作り出すために、当会は休むことなく活動を続けていかなければならない。活動方針にどのように取り組み、現状はどうかをテーマごとに報告し、次年度以降の活動に反映したい。

具体的に関わった活動、行事については、09年度本部、支部活動報告を参照頂きたい。

■全体活動指針への取組

今年度も昨年度同様に 全国頸損連絡会の連携・協力体制を強化し「ピアサポート」「情報収集と提供」、各種問題を掘起こし取り組む、当事者不在の制度改正が実施されないように取り組む、などを活動テーマとし、特に最重度の人工呼吸器使用者への取り組みは必須課題であり急務を要するとして取り組んできた。

全国支部の連携強化、支部のない地域の頸損者との交流を通して、頸損者の情報ネットワークは確実に拡大強化し成果をあげてきている。恒例となりつつある7月の鳥取交流会、11月の四国交流会、また各地域での支部交流会など、様々な場で、様々な形で、頸損ネットワークが広がっている。

また全国の頸損者を対象にした「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」は、736通の回答を頂き、この調査の中間報告を第24回八工学カンファレンス in 所沢で発表した。

さらに本部、支部に寄せられる相談、個別訪問、病院訪問を通してピアサポート、セルフヘルプ活動を継続して実施している。時には法律相談のような当会では対応できない問題を持ち込まれたりするが、相談先を紹介するなど対応している。

障害者自立支援法、「障害者、高齢者の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」への問題提起、障害者基本法改正問題や、障害者権利条約の国内批准に向けた動きが活発化している。専門的な言葉や話が多く、誰もが刻々と変わる情勢を理解することが難しい状況にあるが、他団体と連携した行政への申し入れ活動、全国の障害者が連帯する街頭活動などに参加し当事者不在の制度改革が行われぬようにできることから一つずつ取り組んできた。

■個別課題の動向、取り組み状況

○障害者の権利保障

障害者の権利保障に関わる問題であるが、当会が加盟するDPI日本会議も構成団体となっている、JDF（日本障害者フォーラム）では障害者権利条約の日本語公定約（案）に対して、当事者の立場から意見を届けて仮訳に反映させている。また障害者基本法の見直しに向けて、権利条約の理念が十分反映された改正が行われるように申し入れを行っている。これらの取組は、将来の「障害者差別禁止法」制定へつながるものと信じている。会員には、地方自治体における「障害者差別禁止条例」の制定に参画し、障害者権利条約の国内批准に向けたJDFの地域フォーラム開催にも携わっている人もいる。

また障害者権利条約が批准されるという話が年初に流れたが、国内法の整備が進まない状況での拙速

な批准は問題が多いという事で取り下げられた。障害者運動の理念が理解されてきた証しである。

今後も障害者の権利が確実に保証され、実効性のある国内法（障害者差別禁止法など）が整備されるよう、他団体とも協力し行動していかねばならない。

○介助制度

介助制度については 重度障害者の自立生活が十分支えられる制度を求め、他団体と協力し行動する、地元における障害者施策に積極的な意見発信を行うという目標であった。

障害者自立支援法の問題点を他団体と取り組み全国フォーラムへの参加や厚労省交渉の支援を通して共闘した。深刻なヘルパー人材難の原因の一つであった報酬単価の改定や、自己負担問題に多少の成果はあったが、本質的な問題は解決されていない。必要な支援サービスの拒絶、提供されるサービス量の地域格差問題など課題は多く残っている。

昨年10月には応益負担や支給量等をめぐって「自立支援法」の違憲性を問う訴訟が全国9地裁でおこされていたが、厚労省側との和解が成立したことは画期的なことだと言える。しかし、この和解ですべてが解決したとはいえない。「地域生活」を送るなら命がけという重度障害者はまだ多い。これからも、地域生活を権利として「制度の谷間」に取り残される人のない、普遍的な介助制度の実現を求めて活動を続けていく必要がある。

○交通・まちづくり

「いつでも、だれでも、どこへでも」「自由に、安全に、円滑に」社会参加できる環境整備を、「障害者、高齢者の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」の下、移動制約者の「移動および利用の権利」を保障するよう求め、公共交通事業者には安全でスムーズな移動環境の整備、接遇サービスを求めてきた。しかし新法ができて約2年半が経過したが、インフラのバリアフリー化はいまだ不十分であり、公共交通機関の乗車拒否に遭ったという話も絶えない。このような環境の中、交通・まちづくりに対して「当事者としての意見提起をすることのできる障害者を育成」することを目的とし、一昨年10月と2月に「バリアフリー障害者当事者リーダー養成研修」が開催され、当会からも講師、受講者として参加している。

東京などでは毎年、公共交通事業者と障害当事者の間で、接遇サービスの向上や、駅やバス停を安全に使えるように、交渉の場が設けられている。国土交通省に対しても、当事者主体のバリアフリー環境整備や乗車拒否の根絶、安全確保等に関して、他団体と協力して要請行動をしている。

また「ハンドル型電動車いす」は事故が多いという事で、安全基準が厳しくなり、操作しにくいものになろうとしている。私たちの体の一部である電動車いすの安全基準が、必要以上に強化され、使いにくいものにされないよう、今後の状況から目が離せない。

そもそも、移動中の事故原因は、バリアフリー化されていない社会インフラにもある。権利条約が批准されて「移動権」が保障されるまで、継続的な取り組みが必要である。

○福祉用具（補装具・日常生活用具）

福祉用具に対する課題では、ユーザーの視点に立った製品開発を求め、研究者・技術者の関係者のみに任せず当事者の目線で開発にも参画していくことを目標にした。自立を支えるために必要な機器を容易に入手できるようにし、自分流の生活を送ることであった。必要なものが必要な人に届けられるには、福祉機器を使う人、支援者、PT、OT、福祉機器開発者、販売メーカーがそれぞれの立場で意見交換し、当事者の感覚（使用感）までも伝え合うことが重要であると考えて活動してきた。

国際福祉機器展やバリアフリー展などにも参画し、意見発信を行った。また2010年5月には「第

3回 リハ工学協会・全国頸損連絡会 合同シンポジウム」を江戸東京博物館（東京都墨田区）にて開催。実態調査に求めるモノと当事者と専門家が一緒に行った調査の意義やデータを解釈しながら、お互いの理解を深めること、そして「頸損解体新書2010」の今後の活用について熱く語った。

当事者の望む生活を手に入れるためには、何をしなくてはならないか、また社会にはどんな問題があるのか、頸損者、支援者、それぞれの視点から考察し、意見交換した。

日々進化する技術革新によってユニバーサルデザインの安価な製品が生み出されることを願い、ユーザーのニーズを、それぞれの立場で確認しあう場を設けていくことが必要である。今後はより多くの当事者、専門家、研究者、メーカーを巻き込んだ取り組みも考えなければならない。

○医療関係

医療制度改革の影響によって、入院拒否や、理不尽なりハビリテーションの打ち切り、短期間での退院促しが起こっているが、当会として具体的な取り組みはできなかった。

質の高い医療、リハビリサービスが適切に受けられる医療制度、人工呼吸器使用の高位頸損者でも、希望を持って闘病生活を送り、安心して地域生活に移行できるように、拠点病院（病棟）を求めると共に、褥瘡治療、排泄管理、呼吸管理を指導できる専門家の養成を求めているかなければならない。また、入院期間の短縮は回復期間を得ずに退院を余儀なくされ在宅生活にも移行できず中途半端な状態での生活になっている。地域の環境整備が急がれる。

○住宅環境

重度身体障害者が円滑な日常生活を営める公営住宅（単身・世帯）の増設、民間住宅を借りる場合の支援サービスの充実を求める。保証人問題、改造費用は、地域での自立生活を送る上で解決しなければならない問題であり、賃貸住宅では、大家の中にはいまだに貸し渋りをする人もいたり、車いす使用であることを理由に敷金を全額没収された人もいる。

住宅改修助成金申請のためには賃貸契約を結ぶことが求められ、契約後改修ができないことが判明したのにもかかわらず敷金を払い戻されなかった例もあり、契約書による文言に一筆加える様な行政からの指導も必要である。

○所得保障・就労

自立支援法施行以来、障害者の所得確保に向けた就労支援強化が謳われ、職業リハビリテーション（職業訓練・職業紹介・職場適応援助者）を実施し、個々の障害特性に応じた支援を受けられるように配慮されだしたが、未だその成果を我々の身近に見ることはできない。現状として捉えられるのは、障害基礎年金等の所得保障がなされずに、困窮した生活を送っている障害者が数多くいることである。

就労の問題も「障害者雇用促進法」の改正による雇用対策への好転は見受けられない。近年、障害者の就労意欲は急速に高まっているにもかかわらず、具体的な方策も示されない。就労を通じ、誇りを持って自立した生活が送れるよう、会を挙げて積極的に国策へ提言していかなければならない。

○実態調査

「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」を、08、09年度の2年計画で、（財）テクノエイド協会から助成金を得て、全国頸損連絡会、日本リハビリテーション工学協会、福祉機器メーカー研究者、看護師等によって構成する実行委員会を立ち上げ、アンケート調査を実施し、「頸損解体新書2010」として報告書を完成し発行することができた。

また、この調査によって浮き彫りになった問題は、今後、具体的な取り組みを行っていく必要がある。

□全国頸損連絡会・本部

- 4月 機関誌『頸損97号』発行
 - 5月10日 頸損実態調査・実行委員会
 - 5月16日・17日 全国総会・岐阜大会
 - 5月30日 『頸損』編集会議
 - 6月13日・14日 D P I年次総会
 - 7月11日 『頸損』編集会議
 - 7月12日 頸損実態調査・事務局会
 - 7月20日 頸損実態調査・実行委員会
 - 8月 機関誌『頸損98号』発行
 - 8月26日～28日 リハ工カンファレンス
 - 9月 5日・6日 全国代表者会議
 - 9月12日 『頸損』編集会議
 - 9月19日 「再生医療」シンポジウム参加
 - 9月29日～10月1日 国際福祉機器展
 - 10月12日 頸損実態調査・事務局会
 - 10月16日 「障害者自立支援法」に関する厚労省交渉及び支援集会
 - 10月30日 「障害者自立支援法」全国大行動 日比谷公園・厚労省前大集会&デモ
 - 10月31日 頸損実態調査・実行委員会
 - 11月 3日 栃木、福島、東京、神奈川交流会
 - 11月 7日・8日 四国頸損者の集い
 - 11月14日 『頸損』編集会議
 - 12月 機関誌『頸損99号』発行
 - 12月 5日・6日 障害者政策研究全国集会
 - 12月17日 東京都交通局鉄道事業部との交渉
 - 12月24日 J R東日本との交渉
 - 12月27日 頸損実態調査・事務局会
 - 1月11日 頸損実態調査・実行委員会
 - 1月16日 『頸損』編集会議
 - 2月 4日 電動車いす安全研究会
 - 2月23日 「障害者自立支援法」に関する厚労省交渉及び支援集会
 - 3月 7日 全国代表者会議
 - 3月10日 頸損実態調査・事務局会
 - 3月20日 『頸損』編集会議
- 偶数月にD P I 常任委員会参加

□栃木頸髄損傷者連絡会

月例会	毎月第二日曜日
6月14日	支部総会
11月3日	恒例福祉運動会 小山中央自動車教習所 東京・福島・神奈川参加
12月19・20日	忘年会 栃木県小川町那珂川苑
2月20日	とちぎ障がいセミナー「『どうなる新法 どうする障害者自立支援』パネルディスカッション」参加（宇都宮大学工学部） 講演 谷 博之（民主党障がい者政策推進議員連盟会長）

その他の活動

月例会 東京参加 交流会

県内介護施設又は、在宅障がい者介護士さんよりの質問など

車椅子の改造について

褥瘡の管理・褥瘡専門医師（病院）について

障がい者用のある公営住宅の入居や改造について

市や県の窓口又は、以前講演依頼をしていただいた病院等で出来る範囲内で対処いたしました。

□東京頸髄損傷者連絡会

4月5日	お花見(新宿御苑)
4月16日	全国大行動 政党シンポジウム(参議院議員会館)
4月25日	役員会 (新子安)
5月16日～17日	全国頸髄損傷者連絡会 総会 岐阜大会
5月23日	役員会 (新子安)
6月6日	東京頸髄損傷者連絡会 総会 (新宿区立障害者福祉センター)
6月20日	リハ工プレカンファレンス (国立障害者リハビリテーションセンター)
7月10日	東京都障害者社会参加推進協議会会議 参加
7月25日	ヨテック (パシフィコ横浜)
8月2日	東京頸損・神奈川頸損合同交流会 (横浜)
8月26日～28日	第24回リハ工学カンファレンス 参加 (国立障害者リハビリテーションセンター)
8月30日	役員会 (新子安)
9月5日～6日	全国頸髄損傷者連絡会代表者会議 (京都)
9月24日	民営鉄道協会加盟各社との話し合い 参加 (戸山生涯学習館)
9月29日～10月1日	第36回国際福祉機器展 見学
10月1日	関東鉄道協会各加盟事業者との話し合い(東京都障害者総合スポーツセンター)
10月2日	東京障害者社会参加推進センター 福祉講座 参加 (東京都障害者福祉会館)
10月16日	全国大行動 厚生労働省交渉 参加
10月17日	第30回 国立障害者リハビリテーションセンター並木祭 参加

- 10月30日 障害者自立支援法・全国大フォーラム 参加
- 11月3日 栃木県小山市福祉運動会 参加 (栃木・東京・神奈川・福島)
- 11月29日 秋の勉強会 (戸山生涯学習館)
- 12月5日～6日 障害者政策研究全国集会 参加 (戸山サンライズ・新宿区立障害者福祉センター)
- 12月17日 役員会 (練馬)
- 12月24日 JR 東日本との話し合い 参加 (新宿 JR 東日本本社)
- 1月30日 新年会 (東京ベイ有明ワシントンホテル内中村孝明 ARIAKE)
- 3月7日 名古屋市福祉用具プラザ3階会議室

□神奈川頸髄損傷者連絡会

- 06/07 『定例総会 (参加者21人)』 厚木福祉センター
- 07/05 『在宅就労についての勉強会 (参加者:30人)』 厚木福祉センター
- 08/02 『東京支部との合同交流会 (参加者:40人)』 横浜
- 09/05, 06 代表者会議 京都
- 09/10 神奈川県保健福祉部との交渉
- 09/27 『バーベキュー大会 (参加者:50人)』 大和泉の森ふれあいキャンプ場
- 10/24 七沢更正ホーム文化祭・出店
- 11/03 栃木頸損会の親睦会 (小山)
- 11/07, 08 愛媛頸損連絡会の「四国の集い」
- 11/29 『横須賀懇親会 (参加者8人)』
- 12/02 神奈川県との交渉
- 2010年
- 02/07 『新年会 (参加者25人)』 厚木
- 02/09, 10, 12 国際医療福祉大学小田原校、OT実習の評価
- 02/16, 17, 18 国際医療福祉大学小田原校、OT実習の評価
- 04/25 定例会 厚木福祉センター

□静岡頸髄損傷者連絡会

- H21. 5月24日 定期総会 / 菊川市福祉センターけやき
- 6月19日 機関誌「ごむて」発行
- 6月30日 会員交流会 (バーベキュー) / 静岡市小河内
- 8月9日 勉強会「福祉制度の活用」 / 菊川市福祉センターけやき
- 8月22日 愛知頸損連絡会企画レクリエーション参加 / 名古屋市
- 9月6日 全国頸損連絡会代表者会議 / 名古屋市
- 10月13日 機関誌「ごむて」発行
- 10月25日 社会参加体験プログラム「ショッピングと映画鑑賞」 / 磐田市

□愛知頸髄損傷者連絡会

平成21年

- 4月19日 春のレクリエーション
「春だ！！いちごだ！バーベキュー」
(南知多グリーンバレイ・魚太郎)
- 5月16日・17日 全国頸損連総会「岐阜大会」(アクティブG)
24日 「わだちまつり」に参加(AJU自立の家)
- 6月5日 セルフヘルプ活動「第10回社会生活講座」
テーマ「車いすで旅に出よう！」(中部労災病院)
- 14日 第10回愛知頸髄損傷者連絡会 総会(AJU自立の家)
- 8月22日 静岡・岐阜・愛知3県合同企画
ナイトツアー(名古屋港水族館)
- 9月4日 セルフヘルプ活動「第11回社会生活講座」
テーマ『外出！走行テクニック』(中部労災病院)
- 5日・6日 全国代表者会議(京都)
- 10月10日・11日 秋の一泊旅行
吉本新喜劇とUSJツアー(大阪難波周辺)
- 14日 セルフヘルプ活動「第12回社会生活講座」
テーマ「働く！パ・ファルメィア工房 ぎふ」(中部労災病院)
- 18日 名古屋シティ・ハンディマラソン(久屋大通公園周辺)
- 11月3日 ワインフェスタ2009(多治見神言修道院)
- 12月16日 セルフヘルプ活動「第13回社会生活講座」
テーマ「なんとか暮らせる今の時代」
～縁を大事にしよう～(中部労災病院)
- 23日 忘年会(タイハウ千種駅南ビル)

平成22年

- 1月17日 新年会(AJU自立の家)
- 2月14日 勉強会 重度障害者の自立生活について
-「びわこ学園」での実践を通して-(AJU自立の家)
- 3月28日 会員持ち込み企画
「電車でGO！」(中京競馬場)

□頸髄損傷者連絡会・岐阜

【2009年】

1月 第6回 実行委員会 場所 じゅうろくプラザ

2月 第7回 実行委員会 場所 じゅうろくプラザ

夢旅人10月号

- ・全国頸随損傷者連絡会総会・岐阜大会への参加呼びかけ
- ・機関誌「夢旅人 Vol.17」について

3月 夢旅人3月号

- ・会費徴収のお願い

機関誌「夢旅人 Vol.17」発行

第8回 実行委員会 場所 じゅうろくプラザ

4月 実行委員会 場所 じゅうろくプラザ

- ・全国頸損（岐阜大会）の準備（毎週 日曜日）

5月 実行委員会 場所 じゅうろくプラザ

- ・全国頸損（岐阜大会）の準備（毎週 日曜日）

5月16、17日

全国頸随損傷者連絡会総会・岐阜大会

- ・全国頸損（岐阜大会）の反省会
- ・全国頸損（岐阜大会）の実行委員会の解散

6月 夢旅人6月号

- ・総会のお知らせ

6月21日 平成21年度 頸損連絡会岐阜 総会

場所 「わかくさ・プラザ」総合福祉会館 3F 会議室

8月 夢旅人8月号

- ・平成21年度 頸損連絡会岐阜 総会での決定事項

8月22日 愛知頸損連絡会企画レクリエーション参加 / 名古屋市

機関誌「夢旅人 Vol.18」発行

9月5、6日 ・代表者会議(京都)

10月 夢旅人10月号

- ・頸損連絡会岐阜 忘年会の案内

11月22日 頸損連絡会岐阜忘年会

場所 ホテルリソル岐阜

【2010年】

3月7日 ・代表者会議(愛知)

平成21年度の岐阜支部の活動は、全国頸随損傷者連絡会総会・岐阜大会に向けての、実行員会での準備活動が中心でした。

□京都頸髄損傷者連絡会

21年4月 平成21年度京都頸髄損傷者連絡会総会

前年度の総括と会計報告。当年度の主活動として全国頸損「京都大会」を掲げ決起する。また、行政交渉も重要課題とし、引き続き重度障害者が安心して暮らせる社会を目指すこととする。

21年11月 秋の学習会

障害を有する者が大学に通うためにはどのようなことが必要か。ボランティアや有料介助者制度の紹介、大学側の障害学生受け入れ態勢を検証する。

21年11月 京都・大阪頸損連絡会合同レクリエーション

毎年恒例の両頸損連絡会による交流会。今年度は京都丹波口のカラオケボックスでのカラオケ大会。

22年1月 新年昼食会

ボランティアの方の協力を得て手作りの昼食会。料理を囲みながら自己紹介やゲーム大会なども交え、会員相互の交流を図る。

その他

・月2回の定例会。

京都大会開催を控え大会準備に多くの時間を割く。特に年が明けてからは定例会の数を増やし京都大会の準備に集中する。

・機関紙の発行（年4回）

行事案内・報告、福祉施策情報、会員投稿、京都大会情報を掲載。

□大阪頸髄損傷者連絡会

なお、主催、共催、参加とする

親睦交流企画・他

9 / 27 (日) 兵庫BBQ大会

10 / 3 ~ 4 (土・日) 大阪BBQ大会&宿泊体験会

11 / 3 (祝火) 大阪京都合同交流会・カラオケ大会

11 / 21 (土) 東大阪地域交流会

12 / 20 (日) 兵庫忘年会

1 / 31 (日) 新年会

3 / 28 (日) 春レク・ボウリング大会&交流会

勉強会

6 / 28 (日) 星ヶ丘病院ミニ・フォーラム「受傷後の経験談あれこれ Part14」

8 / 26 ~ 28 (水~金) リハ工カンファレンス in 埼玉

10 / 11 (日) 兵庫頸損「本音でトーク! 第2弾 ~ 頸損生活 ~」

10 / 25 (日) 星ヶ丘病院ミニ・フォーラム「受傷後の経験談あれこれ Part15」

12 / 13 (日) 障大連セミナー

12 / 23 (祝水) 頸損ピアサロン 第2回 平野功さん

1 / 24 (土) 星ヶ丘病院ミニ・フォーラム「受傷後の経験談あれこれ Part16」

相談対応 17件

セルフヘルプ対応（個人宅や病院訪問、一緒に外出するなど） 延べ18件

機関紙発行 頸損だより 4回発行

- ・ 6 / 27 (土) 頸損だより発送
特集「慢性期の合併症」
- ・ 9 / 26 (土) 頸損だより発送
特集「慢性期の合併症」
- ・ 12 / 26 (土) 頸損だより発送
特集「就寝時のベッド上の工夫」
- ・ 3 / 27 (土) 頸損だより発送
特集「トランスファーについて・前編」

事務局通信 7回発行

- ・ 4 / 18 (土) 事務通発送
- ・ 5月事務局通信はインフル影響で中止
- ・ 7 / 25 (土) 事務通発送
- ・ 8 / 29 (土) 事務通発送
- ・ 10 / 24 (土) 事務通発送
- ・ 11 / 28 (土) 事務通発送
- ・ 1 / 23 (土) 事務通発送
- ・ 2 / 27 (土) 事務通発送

役員会

- ・ 4 / 19 (日) 4月期役員会
- ・ 5月期役員会はインフル影響で中止
- ・ 6 / 21 (日) 6月期役員会
- ・ 7 / 12 (日) 7月期役員会
- ・ 8 / 9 (日) 8月期役員会
- ・ 9 / 13 (日) 9月期役員会
- ・ 10 / 18 (日) 10月期役員会
- ・ 11 / 22 (日) 11月期役員会
- ・ 12 / 20 (日) 12月期役員会
- ・ 1 / 10 (日) 1月期役員会
- ・ 2 / 14 (日) 2月期役員会
- ・ 3 / 14 (日) 3月期役員会

会議等

- 4 / 11 (土) ピア大阪運営委員総会
- 4 / 25 (土) 障大連総会
- 4 / 26 (日) 大阪頸損連絡会支部総会
- 5 / 16 ~ 17 (土・日) 全国頸損連絡会総会・岐阜大会
- 5 / 28 (木) 関定協総会
- 6 / 14 (日) 兵庫頸損連絡会支部定例会
- 9 / 5 ~ 6 (土・日) 全国頸損連絡会・秋の代表者会議・京都合宿
- 11 / 27 (金) 対大阪市オールラウンド交渉
- 3 / 7 (日) 全国頸損連絡会・春の代表者会議・名古屋

実行委員会

- 全国頸損連 頸損実態調査「解体新書 2010」実行委員会
10 / 31、1 / 11、3 / 10
- 大阪頸損連 新年会実行委員会
12 / 19、1 / 9、1 / 23、2 / 20 (慰労会)

その他

- 頸損情報DBについて考える小集団活動
第6回 5 / 3、第7回 7 / 20、第8回 8 / 23、第9回 1 / 16
- 頸損連呼吸器使用メンバー情報交換&交流会
第1回 4 / 12、第2回 7 / 26、第3回 11 / 26、第4回 2 / 4
- 11 / 7 ~ 8 (土・日) 四国頸損の集いへ参加
- 3 / 2 (火) 星ヶ丘看護専門学校にて講義
- 3 / 22 (月) NPOちゅうぶ設立25周年パーティへ参加

□兵庫頸髄損傷者連絡会

2009(平成 21 年)

.4.12	第 1 回呼吸器使用者情報交換 & 交流会(西宮市総合福祉センター)(池田・米田・井上)
.4.16-18	バリアフリー2009 福祉機器展(インテックス大阪)(三戸呂・坂上・米田・宮野)
.4.19	神戸市在住・頸損者訪問(三戸呂・宮野)
.4.19	大阪頸損連絡会役員会議 & 頸損実態調査構成委員会(CIL ある)(坂上・森)
.4.20	日本福祉のまちづくり学会・関西支部 平成 21 年度役員会(大学コンソーシアム大阪)(坂上)
.4.21	神戸学院大学「ケアワーク演習」講義(宮野・米田)
.4.23	定藤記念福祉研究会世話人会(西宮市総合福祉センター)(坂上)
.4.26	大阪頸損連絡会・支部総会参加(三戸呂・坂上・桜井・森・宮野)
.5.5	伊丹市在住・頸損者訪問(坂上)
.5.7&14	関西学院大学・人権教育科目 006「障害者問題」講義(関学大上ヶ原 C)(坂上)
.5.16-17	全国頸損連絡会総会・岐阜大会(三戸呂・坂上・米田・宮野)
.5.24	定藤記念福祉研究会総会(大阪府社会会館)(坂上)
.6.2	大阪保健医療大学保健医療学部リハビリ学科講義(大阪保健医療大学 1 号館)(坂上)
.6.2	兵庫頸損連絡会・魂のホタル鑑賞会(加東市)(坂上・宮野)
.6.7	兵庫頸損連絡会・地域交流会 in 明石市(三戸呂・米田・山本・宮野・神戸学院大学学生)
.6.14	兵庫支部定例会(三戸呂・坂上・吉田み・大西・木戸・米田・池田・多田・角南・山本・宮野)
.6.18	日本福祉のまちづくり学会関西支部総会 & セミナー(常翔学園大阪センター)(坂上)
.6.20	日本リハビリテーション工学協会・プレカンファレンス in 埼玉(宮野)
.6.20	伊丹市自立支援講演会参加(いたみいきいきプラザ)(木戸・坂上)
.6.21	大阪頸損連絡会役員会議(CIL ある)(三戸呂・坂上・森)
.6.23	明石市医師会付属看護専門学校「社会福祉論」講義(宮野・米田)
.6.27	関西学院大学エクステンションプログラム・ホームヘルパー 2 級研修講義(関学大学院)(坂上)
.6.27	兵庫頸損連絡会・地域交流会 in 伊丹市(三戸呂・坂上・桜井・木戸・池田・米田・宮野)
.6.28	星ヶ丘厚生年金病院ミニ・フォーラム「受傷後の経験談あれこれ Part13」(池田・坂上)
.7.11	兵庫頸損連絡会 鳥取交流会(三戸呂・山本・多田)
.7.12	大阪頸損連絡会役員会議(CIL ある)(坂上・宮野)
.7.19	定藤記念福祉研究会セミナー(大阪市社会福祉研修・情報センター)(坂上)
.7.20	「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」実行委員会(東京)(三戸呂)
.7.23	明石市在住・頸損者訪問(三戸呂)
.7.26	第 2 回呼吸器使用者情報交換 & 交流会(西宮市総合福祉センター)(池田・米田・井上)
.7.29	兵庫県立リハセンター施設運営協議会(三戸呂)
.7.30	兵庫頸損連・西播磨総合リハビリテーションセンター 運営協議会(三戸呂・坂東・宮野)
.8.1	バーベキュー大会試食会(大蔵海岸 BBQ サイト)(三戸呂・坂上・米田・宮野)
.8.4	大阪府池田市在住・頸損者訪問(坂上)
.8.9	大阪頸損連絡会役員会議 & 勉強会「権利条約」(CIL ある)(坂上)
.8.26-28	第 24 回リハビリ工学カンファレンス in 所沢(三戸呂・米田・宮野)
.9.5-6	全国頸損連絡会代表者会議(京都)(三戸呂・坂上・田村・宮野)
.9.13	大阪頸損連絡会役員会議 & 勉強会「年金関係」(CIL ある)(坂上)
.9.13	バーベキュー大会サイト交渉(三戸呂・米田・宮野)
.9.19	頸損アニメクラブカラオケ参加(シダックス・梅田茶屋町クラブ)(坂上)
.9.20	DPI タウンミーティング(西宮市)(三戸呂・木戸・宮野)
.9.27	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー大会(大蔵海岸・バーベキューサイト)
.10.3-4	大阪頸損連絡会バーベキュー & 宿泊体験企画(アミティ舞洲)(木戸・山本・米田)
.10.9	兵庫リハ設立 40 周年記念事業 & パーティー(三戸呂・宮野)
.10.11	兵庫頸損連絡会 本音でトーク学習会(三田市)
.10.16	障害当事者講師養成セミナー(神戸市)(米田・山本・宮野)
.10.16-17	はがき通信懇親会 in 東京 2009(16 日国際ファッションセンター、17 日第一ホテル両国)(坂上)
.10.23	兵庫県福祉用具専門部会(兵庫リハ)(三戸呂)
.10.24	人工呼吸器使用者記録映像プレ試写会(三戸呂・池田・米田・宮野)
.10.25	星ヶ丘厚生年金病院ミニ・フォーラム「受傷後の経験談あれこれ Part14」(木戸・多田)
.10.30	10.30 全国大フォーラム(日比谷野外音楽堂及び厚労省前)(坂上・吉田み・田村・宮野)
.10.31	「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」実行委員会(東京)(三戸呂)
.11.3	大阪 & 京都頸損連合同交流会「のど自慢大会」(坂上・桜井)

.11.7-8	四国頸損の集い交流会(愛媛県四国中央市)(三戸呂・坂上・山本・浜野・宮野)
.11.14	入院中の頸損者訪問(尼崎市)(坂上)
.11.19	兵庫頸損連・西播磨総合リハセンター運営協議会&職員研修(三戸呂・坂東・宮野)
.11.22	大阪頸損連絡会役員会議&勉強会「交通関係」(CILある)(三戸呂)
.11.26	第3回呼吸器使用者情報交換&交流会(西宮市総合福祉センター)(池田・米田・井上)
.12.20	兵庫頸損連絡会 忘年会(三戸呂・桜井・米田・池田・吉田み・山本・中地・宮野)
.12.27	入院中の頸損者訪問(大阪府豊中市)(坂上)
.12.30	入院中の頸損者訪問(尼崎市)(坂上)

2010(平成22年)

.1.11	「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」実行委員会(東京)(三戸呂)
.1.16	第9回頸損連小集団活動(大阪府東大阪市)(桜井)
.1.31	大阪頸損連絡会・新年会&文化イベント(三戸呂・坂上・桜井・森・宮野・井上)
.2.4	第4回呼吸器使用者情報交換&交流会(池田・米田・井上・三戸呂・吉田み・宮野)
.2.14	神戸市在住・頸損者訪問(宮野)
.2.14	大阪頸損連絡会役員会議(CILある)(三戸呂)
.2.20	丹波市在住・頸損者訪問(宮野)
.2.27	ユニバーサルツーリズム成果報告会(神戸学院大学ポーアイキャンパス)(山本・木戸・宮野)
.3.2	兵庫県福祉用具専門部会(兵庫リハ)(三戸呂)
.3.7	全国頸損連絡会代表者会議(名古屋)(三戸呂・坂上・宮野)
.3.12-14	はがき通信懇親会 in 沖縄 2010 参加(那覇)(坂上)
.3.14	第11回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会(県民会館)(三戸呂・米田・山本・宮野)
.3.17	宝塚市社会福祉協議会・地域福祉活動者ステップアップ講座講師(長尾地区センター)(坂上)
.3.26	兵庫頸損連絡会 会計決算(三戸呂・布上)
.3.28	大阪頸損連絡会 春レク・ボウリング大会(坂上・宮野)

原稿執筆活動

全国機関誌	<ul style="list-style-type: none"> ・全国機関誌「頸損」No.97 2009年4月発行 おなかに肛門が出来ちゃった!~ストーリーレポート・その~(宮野) ・全国機関誌「頸損」No.98 2009年8月発行 巻頭言 全国総会岐阜大会開催される~一期一会の心が集う~(三戸呂)、特別報告1 人工呼吸器使用者の自立に向けて「2泊3日の外泊チャレンジ」(米田)、特別報告2 介助体験を通して「2泊3日の外泊支援」(藤田)、第2回 全国頸損連・日本リハ工学協会合同シンポジウム報告(宮野)
大阪支部機関誌	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局通信 No.77 地域交流会 in 伊丹(池田) 兵庫頸損連 第5回定例会(宮野) ・頸損だより 2009夏(No.110) プレス・トゥ・ヴォイス-「息」から「声」へ-連載第4回 頸損連・リハ工合同シンポジウム「行ってみたプロジェクト」講演録、お便りメール多田俊成さんから(多田)、頸損連インターネットNEWS(桜井) ・事務局通信 No.79 兵庫頸損・明石大蔵海岸でのバーベキュー大会(山本) ・頸損だより 2009秋(No.111) プレス・トゥ・ヴォイス-「息」から「声」へ-連載第5回リハ工カンファレンス in 埼玉所沢に参加して(米田)、シリーズ・自立生活あれこれ第18回「外に出ようや!」(木戸)、関西の新しい鉄道(坂上)、頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査-中間報告書-(2009.3 一部紹介)(三戸呂)、頸損連インターネットNEWS(桜井) ・頸損だより 2009冬(No.112) 四国頸損連絡会の集い報告~参加された方からのコメント~(山本)、プレス・トゥ・ヴォイス-「息」から「声」へ-連載第6回 第3回人工呼吸器使用者情報交換&交流会レポート(米田)、頸損実態調査進捗状況報告(三戸呂)、頸損連インターネットNEWS(桜井) ・頸損だより 2010春(No.113) プレス・トゥ・ヴォイス-「息」から「声」へ-連載第7回(井上・米田)、頸損連インターネットNEWS(桜井)、兵庫頸損連絡会だより(三戸呂)
他誌への寄稿	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本障害者リハビリテーション協会発行「ノーマライゼーション 障害者の福祉」2009年6月号 「知り隊おしえ隊:外へ出ようや! 宿泊チャレンジを経験して」(米田) 2009年11月号「工夫いろいろエンジョイライフ」(宮野) ・NPO法人日本せきずい基金発行「脊損慢性期マネジメントガイド」コラム「頸損歴30年 私の健康法」(三戸呂) ・日本リハ工学協会「リハビリテーションエンジニアリング2009年5月24-2」交通バリアフリー-当事者の移動-」(宮野) 連載-第2回全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会 合同シンポジウム in KANSAI - 2009年8月 (三戸呂)2009年11月 (米田)2010年2月 (桜井)

□愛媛頸髄損傷者連絡会

- 5月14日 会報「FRIENDSHIP・40号」の発行
- 5月16 - 17日 全国総会・岐阜総会に参加
- 5月24日 地域生活や自立生活の学習会(四国中央市)
- 6月21日 親睦交流会(しまなみ海道)
- 7月5日 会員を訪問(木曾さん宅)
- 7月11日 愛媛医療専門大学校を訪問
- 8月15日 会報「FRIENDSHIP・41号」の発行
- 10月4日 親睦交流会(松山市総合公園)
- 11月7 - 8日 四国頸損の集い(四国中央市)
- 12月5日 会報「FRIENDSHIP・42号」の発行
- 12月13日 忘年会(全日空ホテル)
- 2月21日 四国頸損の交流会(四国中央市)
- 3月28日 交流会・花見(松山市道後公園)

2009年11月7 - 8日、愛媛県四国中央市・保健センター一階会議室におきまして第四回の四国頸損連絡会の集いが開催されました。東京・神奈川・大阪・兵庫・香川・徳島・愛媛と集まっていただけの方々に感謝しております。今回はじめてプランに宿泊を伴うもので企画させていただきました。準備不足な点や予想を超える参加に、ご参加のみなさんには不便をおかけしました。また参加いただいたみなさんから感想をいただき報告を発行いたしました。

四国頸損連絡会の集いに参加いただいた香川の毛利さんから香川頸損連絡会の設立の声が上がりました。2月には四国頸損連絡会の交流会が開催されました。香川頸損連絡会ではお花見の開催や愛媛頸損連絡会と合同のバーベキュー交流会の開催が企画されました。今後とも協力関係を継続していきたいと思っております。

全国頸損連絡会には所属していませんが、3月に高知頸損連絡会の会員の方と交流を深めてきました。今後とも高知頸損連絡会とも親睦交流を緊密に図りたいと思っております。人工呼吸器を使用して自立生活を実現している方から全国総会に参加の要望があり、今年の総会の案内を送っていただくようになりました。

□北海道連絡所

「頸損と家族の会・北海道」(現在の名称)としての活動

- ・各種相談への対応随時
- ・「北国の頸損かわら版」発行 4, 9, 1月 以上3回発行
- ・インターネット、郵便物等による情報提供随時

□福島連絡所

「福島頸損友の会」活動報告

- H21. 1月 4日 「友だより」no.5
2月18日 「友だより」no.6
4月 2日 「友だより」no.7
7月 1日 「友だより」no.8(ロゴ登場)
9月25日 「友だより」no.9
11月 3日 栃木県小山市で開催された「第28回 福祉運動会」に参加
栃木・東京・神奈川・福島の頸損仲間交流会
12月12日 「友だより」no.10
- H22. 2月18日 ホームページアドレス変更
<http://keitomo.eeejp.com/>
↓
<http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>
3月 1日 「友だより」no.11
4月 1日 ホームページ更新
5月 2日 「友の会」初めての親睦会(顔合わせ)/郡山市 ホテルハマツ

福島県の窓口として、活動らしい活動もなかなかできずしておりますが、ホームページ担当のメンバーがまめに更新してくれますので、頸損の方やご家族の方からのご相談メールがたまに来ます。できるだけメール連絡できるメンバーみんなにつないでご対応させて頂いております。

それから、手作り「友だより」を不定期にお送り致しております。

全国頸髄損傷者連絡会 2009年度会計報告書

(2009. 4. 1~2010. 3. 31)

単位：円

収 入	支 出
前期繰越 1, 066, 528	団体加盟費 70, 000
本部会費 103, 500	事務所使用料 360, 000
本部運営分担金 706, 000	事務諸経費 6, 455
寄付金等収入 596, 678	通信・発送費 139, 098
広告収入 90, 000	機関誌等印刷・編集費 421, 312
雑収入 61, 135	会議費 109, 833
	旅費交通費 269, 680
	実態調査自己資金分 133, 056
	次期繰越 1, 114, 407
合 計 2, 623, 841	合 計 2, 623, 841

会 計 菊地敏明

会計監査 麩澤 孝

全国頸髄損傷者連絡会 2010年度予算案

(2010. 4. 1~2011. 3. 31)

単位：円

収 入	支 出
前期繰越 1, 114, 407	団体加盟費 70, 000
本部会費 110, 500	事務所使用料 360, 000
本部運営分担金 717, 000	事務諸経費 47, 000
寄付金等収入 590, 000	通信・発送費 150, 000
広告収入 90, 000	機関誌等印刷・編集費 440, 000
	会議費 160, 000
	旅費交通費 300, 000
	予備費 50, 000
	次期繰越 1, 044, 907
合 計 2, 621, 907	合 計 2, 621, 907

2010年度 活動方針提起

You are not alone(一人じゃないよ)

全国頸髄損傷者連絡会では「You are not alone(一人じゃないよ)」を活動のスローガンとして、障害を持つ仲間に対して「あなたは決して独りではない」「我々は決して独りにさせない」と個々のセルフヘルプをおこなっています。同じ障害を持つ者だからこそ、できるサポートがあり、相談にのるだけでなく、一緒になって考えることで、自身も他者も大きなパワーを得ることができると考えて活動しています。

セルフヘルプ活動とは「共通の体験」を通じて、自分自身の生き方を見出していくことであり、それは同じ体験をした人たち、またこれからするであろうと思われる人たちに出会い、悩みや苦しみに対して自分たちがどうやって対処してきたかを伝えあい、同じ体験をした者がサポートしあうことです。

このような活動は誰もが自立(自律)して生きることのできる社会を目指す活動につながっています。一人の頸損者の問題は個別の問題と捉えるのではなく、すべての頸損者の問題として、また、問題によっては頸髄損傷の枠を超えた問題として取り組まなければならないと考えます。

誰もが自立して生きられる社会を目指して

- 頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
 - ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等

- 頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
 - ・代表者会議、支部交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る

- 頸損者への情報提供をより充実させる
 - ・機関誌・HPの内容充実、「頸損解体新書 2010」の利用を薦める

- 障害の枠を超えた各分野との交流・活動
 - ・日本リハ工学協会、大学・専門学校・高校など、分野別メーカーとの交流

- 他団体との統一行動
 - ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動等

2010年度 年間活動方針（案）

■全体活動指針

「セルフヘルプ」「ピアサポート」「情報収集と提供」「ホームページと会報の活用」を積極的に行う。

全国各支部・連絡所間の連携体制を強化すると共に、頸損ネットワークの拡大を目指す。

頸髄損傷者の抱える課題を掘り起こし、解決を目指す。

当事者不在の制度改革が実施されないように、各々が学び意見発信する。

■分野別活動課題

●障害者の権利保障

「障害者権利条約」の批准と、障害者の権利が保障される国内法の整備を求める。

各地域における「差別禁止条例」制定に向け積極的に関与する。

●介助制度

重度障害者の自立生活が十分支えられる普遍的な制度を求めていく。

現行制度の65歳介護保険移行によるサービス低下を防ぐため制度の見直しを積極的に関与する。

●交通・まちづくり

「いつでも、誰でも、どこへでも」自由で、安全に移動できる社会環境を求める。

移動制約者の「移動および利用の権利」が保障されるように求める。

公共交通事業者に安全でスムーズな移動環境の整備、接遇サービスを求める。

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

ユーザーの視点に立った製品開発を求め、開発にも積極的に参画していく。

自立を支えるために必要な機器が、的確・迅速・安価に入手できるように求める。

必要不可欠な高機能製品が、高額な負担を強いることなく入手できるように求める。

●医療

質の高い医療、リハビリサービスが適切に受けられる制度や診療科・病院の設置を求める。

人工呼吸器使用者の、呼吸管理を指導できる専門家の養成を求める。

人工呼吸器使用者が安心して住めるように、地域の医療環境の整備を求める。

●住宅環境

重度身体障害者が円滑な日常生活を営める公営住宅（単身・世帯）の増設を求める。

民間住宅を借りる場合の支援サービスの充実を求める。（保証人問題、改造費用、家賃補助）

●所得保障・就労

年金および諸手当によって、生活を賄える給付水準となるよう積極的に求めていく。

無年金障害者問題の根本問題解決に協力し、支援していく。

重度障害者の就労促進のために、就労環境の整備を求めていく。

■規約改定について

「理由」

会の充実に伴い本部役員個々の負担が大きくなってきた。現在、副会長は2名で内1名は全国大会開催支部の代表者が担当する。

このたびの提案は、副会長職を一つ増やし3名とする。

また、事務量の膨大さと事務局長の仕事を緩和することと、機関誌「頸損」の充実化と情報発信の密化を狙い情報の選択等も含め補佐する者として、事務局員を若干名置く。

以上が、本部役員を増やす理由であり、それに伴う規約改定についての提案である。

（現行）

第13条 本会は次の本部役員を置く

- (1) 会長1名
- (2) 副会長2名
- (3) 事務局長1名
- (4) 編集長1名
- (5) 会計1名
- (6) 会計監査1名

（改定案）

第13条 本会は次の本部役員を置く

- (1) 会長1名
- (2) 副会長2名
- * (補足案：但し、状況に応じ1名追加できる)
- (3) 事務局長1名
- * (補足案：但し、状況により事務局員若干名追加できる)
- (4) 編集長1名
- (5) 会計1名
- (6) 会計監査1名